「学校体育功労賞を受賞して」

元湯前町立湯前中学校　校長　高田哲弘

平成２８年度熊本県学校体育功労賞を賜り、関係者の皆様はじめ多くの方々のおかげだと心より感謝申し上げます。

今から４７年前、私が中学校２年生の時、図書室でオリンピックの写真集を眺めていた。すると数学の先生が、私の背後から「体育の先生もよかかもしれん。」とぼそっとつぶやかれた。その言葉が体育教師を目指すきっかけになったような気がする。

高校時代は部活動に熱中し、体育系大学へ進学した。在学中も部活動に力を入れながらも中学校体育の免許を取得することができた。卒業後は、小学校教員免許を取得するため通信教育を受け、採用試験の勉強と平行して土建業や飲食業のアルバイトを続けた。そして２年間の臨採を経て、人吉市立東小学校に採用されたのである。

そして３年後、念願だった中学校体育教師として水上小学校に赴任し７年間を過ごしたが、部活動（特に駅伝）の指導に明け暮れ、保護者ともよく飲んだ。試合の結果が悪くても保護者の口から出る言葉は、私への感謝の気持ちばかり。なんとかしていい結果を出して喜んでもらおうという一心で、かなり厳しい練習を課した。「あのときの苦しい練習が社会に出てからの糧になった。」と、今でも教え子たちが言ってくれるのが何より嬉しい。

その後、多良木中学校へ赴任。生徒指導担当となり、夜中まで家庭訪問をして駆けずりまわっていたのが懐かしい思い出である。駅伝では、県大会に出場することができたが、県のレベルの高さを思い知らされた。

３年が過ぎ、人吉第二中学校に赴任。野球部担当となり、毎日のようにノックの雨を降らせた。保護者の野球熱は高く、バックネット裏には常に練習を見守る姿があった。大所帯の部活動では、いかに効率的に練習をこなすか、そして集中させるかが鍵であることを痛感した。

２年後、岡原中学校へ赴任。再び陸上部の指導をすることになるが、部員はわずか４名で廃部の危機に迫られていた。それが数年後にまさか県を制するチームになるとは…。練習スタイルを当初から大きく変えてみた。生徒たちになるべく主体性を持たせるために練習日記及び個別練習計画に基づいた練習日を週一回設定した。その他日曜日は休養とし大会出場回数を絞る。練習後の足のアイシング、学校近くの野山を利用したクロスカントリやゴルフ場での練習を取り入れるなど、かなり画期的なものであったように思う。県駅伝大会で１０位、翌年４位、そして平成１２年に念願の優勝を飾ることができた。優勝した翌日は、祝福の電話が鳴りっぱなしで授業どころではなかったことを記憶している。小さな学校が、九州そして全国大会という大きな舞台を経験できたことは、私にとって大きな財産になった。

その後、教頭として小中学校合わせて四校８年間を経験し、湯前町立湯前中学校を最後に教職生活を終えることができた。

今の私に「教育とは何か」と問われるならば、「子どもたちの無限の可能性を引き出すことではないか。」と答えるだろう。教職生活の半分以上が部活動三昧であったが、生徒たちの様々な可能性が開花し実現する瞬間に出会い、私自身も成長させてもらった。

やり残したことは山ほどあるが、これまで微力な私を支えてくださった多くの皆様方に改めて感謝申し上げたい。